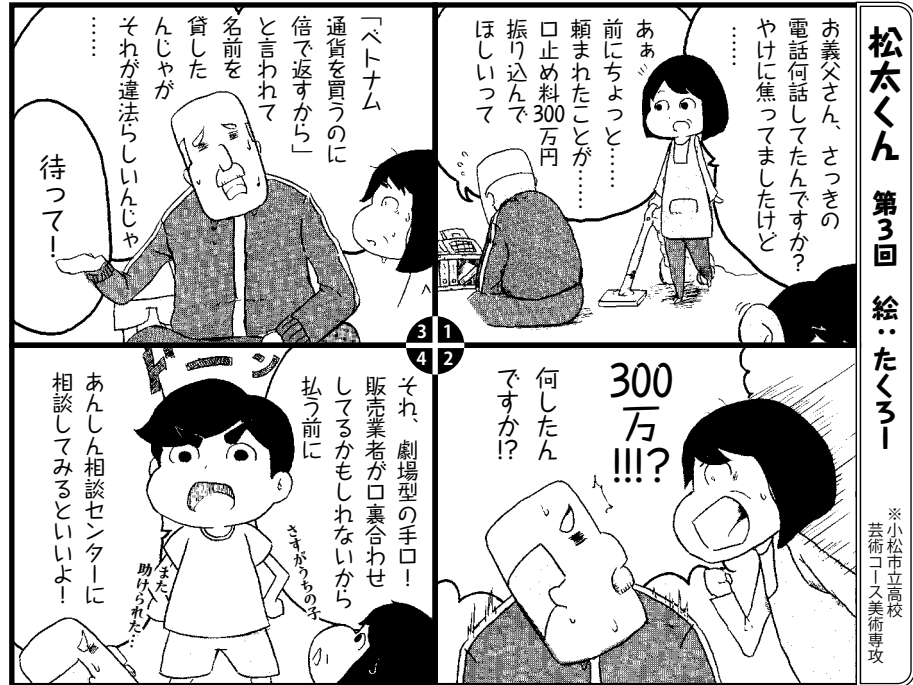


外国通貨の購入を勧める手口にご注意を！



事例 A社から電話で「ベトナム通貨の購入のため名前を貸してほしい」と言われ承諾した。その後、B社から電話で「名前を貸すと、国税局の調査が入れば捕まる。通貨を購入すれば秘密にする」と言われ現金を送ったが、両社とも連絡が取れなくなった。

トラブル回避のポイント

- ◆販売業者とは別の業者が通貨を高額で買い取ると誘う手口が多く、最終的に連絡が取れなくなります。
- ◆このような手口は劇場型勧誘と言いい、複数の事業者が口裏を合わせています。
- ◆被害回復を口実に勧誘してくる二次被害もあるため、ご注意ください。

第72回

現代美術展小松展

問い合わせ

文化創造課 ☎24・8130

第72回現代美術展の中から、県内を代表する作家の作品、入賞作品、小松市の作家の作品、計167点を展示します。

会期 6月30日(木)～7月10日(日) 会期中無休

9時30分～18時(入場は17時30分まで)

会場 サイエンスヒルズこまつ わくわくホール

内容 日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真

観覧料 一般500円、高校生以下無料

同時開催

◆美が語る 珠玉と石の文化
石の文化の日本遺産認定を記念して、市内作家による「石」をテーマとした企画展です。

◆未来を拓く
小松市中高生作品展

小松の美術の未来を拓き、これからの時代を担っていく市内中高生による作品展です。



▶美術文化大賞 日本画「ゆめ うつつ」
原田恵(金沢市)

◆ギャラリートーク

出品作家が各作品の魅力を分かりやすく解説します。

とき 7月2日(土)10時～ 洋画、彫刻、書

3日(日)10時～ 日本画、工芸、写真

※申し込み不要



みまっし、きくまっし 小松の方言

連載 220

加藤和夫 ●金沢大学人間社会学域教授・日本語学

方言談話資料に見る 小松方言の特徴 その4

大杉町(下大杉町・大杉中町)方言の 自然談話④

今回も引き続き1996年10月2日に大杉町生活改善センターで収録した4名の話者による自然談話を紹介し、特徴的な方言(傍線部)について解説します。文字化にあたっては表音的片仮名表記(文節分かち書き)で示し、適宜()内に共通語訳を付しました。

- A アレアー オーキー イシガネー。
B ムカシャ アーユモンニ イレテ カンデ
(担いで) アルイタンヤ。
A ムカシャーネ アノ クギバコニネ ホラ
イマカッテ(今だって) ビールノ シエメンダ
ルミタイナ(セメント樽みたいな) アルワンネ。

- アレオ アコノ Gサンガ モロティツテ(貰っていつて) グワイジンサンニ(外人さんに) モッテコイノ シナモンジャワイツテ。
D アノ ヒトワ ナンデモ ウン。
C ソヤケドー アノ カミノ フクロニ ナラシキニ(紙の袋になる前に) シエメントアアーユー デカイオケヤツタンヤ。
A ウン ソーソー オケヤツタ(桶だった)。
C アレ コラエテ(がまんして) アルクノアヤットミタイナモンジャツタ。
B ソヤ ソヤ。
C アトネア(後には) フクロヤツタンカイ。
A オー ワタシラントコ アレデ。
C マツサキニ アレー キノ オケヤツタンニヤ。ドッカデ シエメン イレテ。ソツデ(それで) ダイブ カワツタンヤ。ソツデ アッコノアイマー シエーネンノイエノ シタノヨースイ コツシエル(造る) ジブンニア(頃には) カミンフクロン(紙の袋に) ナツテ。
【解説】
・アレア、シエメントア、アルクノア、アトネア、アッコノア、ジブンニア：傍点部は助詞のワマタはガの子音が弱化して母音のアだけが軽く添えられたように聞こえるものです。
・カンデ：「担いで」の意味のカンデは、白山麓の白峰方言などでも聞かれます。
・グワイジン：傍点部は、歴史的仮名遣いの「ぐわ」にあたる発音(合拗音)の残存例です。石川県加賀地方の高年層で時々聞かれます。
・オケヤツタン、ニヤ：断定の助動詞ヤの前にンがきたためにンニヤに変化した形で、福井県嶺北地方から加賀地方南部で聞かれる特徴です。

歴史の舞台裏

連載 213

▲那谷の茶業功労者 生水和与門▲

『近世村方編』が先月より販売開始となり、この中で、当地方の産業が多種多様に亘っていることが紹介されましたが、今年度は、この『産業編』が発刊予定です。その中の一つ、茶業について、最近調査した新資料「茶業紀功碑」を紹介しましょう。

この紀功碑是那谷町地内と那谷寺境内に建てています。那谷はそもそも前田利常の産業奨励によって埴田、金平、瀬領と並んで茶栽培の盛んな地でした。この那谷に生まれた生水和与門が編み出した茶業製法の功績がこの碑に刻まれています。

和与門は23歳の時(1866年)に製茶業を始め、この頃は藩からも奨励され売行きが上向きでした。ところが明治7年(1874)頃から流行った製法では粗悪茶が目立つようになり、生産は減少。和与門はこれを憂えて、製法の研究に没頭し、明治20年、遂に新製法に成功しました。その後は増産に拍車がかかり、その品質も優良と評価を受け、県から茶業巡業教師に任ぜられ、各地に指導者として巡りました。その俸銀は茶業の隆盛に注がれ、さらに静岡にも招かれ、伝習所を設けて、その製法を静岡にも広めました。



▲紀功碑(那谷町)

この功績を讃えて、明治32年にこの紀功碑が建てられました。小松の茶が喜ばれるのも和与門の地道な努力の賜物なのです。
図書館市史編集担当 ☎24・5315